



# 上川井だより

7月号

令和4年6月30日

横浜市立上川井小学校

校長 山崎 真紀子

## しなやかに

梅雨も明け、照り付ける強い日差しに夏のエネルギーを感じます。夏の太陽を浴びて、1年生が育てている朝顔や5年生の稲、2年生の野菜も、ここ数日でぐんと育ちました。命のたくましさと輝きを感じる季節です。暑さに負けず、元気よく過ごせるよう配慮していきたいと思います。

さて、去る6月29日(水)、旭公会堂にてよこはま子ども国際平和スピーチコンテスト旭区審査会が開催されました。旭区内の小学校の代表児童がSDGsの目標と世界平和について、自分が思うことや取り組んでいること、広く訴えたいことについてスピーチを行いました。

SDGsという言葉は耳にしたことがあるけれど、具体的に意識したことはないという方もいらっしゃるかもしれません。人間、繁栄、地球、平和、パートナーシップ等に関する17の持続可能な開発目標を示しています。横浜市も「SDGs未来都市・横浜」と銘打ち、環境・経済・社会の分野で様々な取り組みを行っています。今話題のウッドストローや廃食油を原料としたバイオ燃料などもそうした取り組みの一つです。横浜市立学校でも、子どもたちがSDGsの目標を身近な問題と結び付け、できることから続けていこうと取り組んでいます。一見難しそうですが、ものを大切にしたり、ごみの分別を徹底したりして資源や環境を守ること、食べ残しや食品ロスをなくすこと、人権意識を高めて差別やいじめをなくすことなど、自分たちの周りにある課題に意識を向けて具体的に考えていくと、これまでも学んだり取り組んだりしてきたことだとわかります。しかし、達成は容易ではありません。実現するには根気よく続けていくことが何より大切です。

本校代表の6年生は、「5ジェンダー平等を実現しよう」をテーマに、自分たちの心に潜む「思い込み」や「偏見」の危険性と、自分らしくあるために「自信を持つこと」「人と比べないこと」の重要性を訴えました。「普通」という言葉に潜む思い込みは、時に人を傷つけ自分らしさをないがしろにすることがあること、自信がないとほかの人の意見に流されてしまうこと、人と比べて自信を失うより、自分自身のこれまでと今を比べるほうが建設的だといった主張は、聞き手の心に強く響いたと思います。みんなと同じであることに安心感をもち、人と違うことが言えない、悪目立ちしたくないという心理は、思春期のみならず誰しも心当たりがあるのではないのでしょうか。しかし逆に、自分の考えに固執して周囲の気持ちに気付かず自己主張を通すというのもトラブルを招きます。柔軟に友達の意見を取り入れながら、自分の頭でしっかりと考えて意見が言えるようになることが理想です。身近な課題に目を向けながら、広く情報を集めたり、友達と意見を交流したりする機会を多く設け、しなやかさを培っていけるような教育活動を実施していきたいと思います。